

発行 水橋地区学校統合推進委員会  
(水橋西部地区センター内)

水橋地区学校統合推進委員会（以下、「統合推進委員会」）の活動が4年目を迎え、今年度は「スクールバス」を中心に議論を進めてきました。今回のニュースレターでは、8月に開催した統合推進委員会や先進地視察等の内容についてお知らせします。

また、水橋学園の開校まで残り1年半を切り、開校に向けた準備等がこれまで以上に増えてきますが、保護者や地域の皆様には、引き続きのご理解とご協力をお願いいたします。

## ■第9回統合推進委員会（令和6年8月30日）

統合推進委員会では各部会（開校準備部会、交通安全部会、学校経営部会、PTA組織準備部会）の活動報告やスクールバスに関する市に対する要望事項について決議しました。

スクールバスの要望事項は以下のとおりです。

### 【要望事項】

#### (1) スクールバス利用基準

- ① 1～6年生 水橋学園を起点に概ね1.0km圏外の児童  
但し、水橋西部地区は圏内の児童の利用を可能とする。
- ② 7年生以上 水橋学園を起点に概ね1.0km圏外の生徒に限り、冬期間のみスクールバスの利用を認める。

#### (2) 乗降場所

##### <水橋中部地区>

水橋中部地区センター、水橋中部消防分団横、水橋東公園

##### <水橋西部地区>

水橋西部小学校または水橋西部地区センターのうち1か所

##### <水橋東部地区>

水橋東部小学校、水橋東公園、上砂子坂公民館前、下砂子坂、堅田公民館前、下砂子坂新  
(下線部拠点はコミュニティバス停)

##### <三郷地区>

野田内科医院横、富山企業団地、三成小学校

##### <上条地区>

旧上条小学校バス待合所

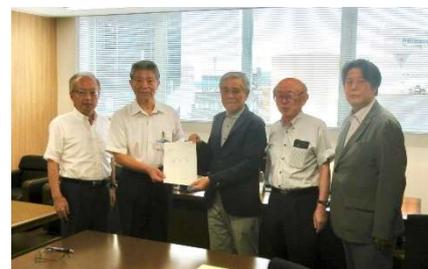
※なお、これまでの各部会の活動については、市ホームページ（学校再編推進課）に掲載されています。（右のQRコードからご覧ください。）



## ■スクールバスに関する要望書提出（令和6年9月17日）

統合推進委員会で決議した水橋学園のスクールバスに関する要望書を花井委員長から市教育委員会の宮口教育長に提出しました。

また、児童のスクールバス乗降状況を保護者が把握するためのシステムの導入についても併せて要望しました。



## ■先進地視察（令和6年8月20日・21日）

水橋学園の開校を見据え、ハード・ソフト両面から地域とともに子どもたちをはぐくむ環境づくりの方法や地域と学校の効果的な連携手法について、調査（情報収集）し、今後の学校づくりに反映させるため、県外の先進地を視察しました。

### 1 視察先

- ・安平町立早来学園（北海道）  
主な調査事項：地域開放ゾーンの運用について
- ・当別町立とうべつ学園（北海道）  
主な調査事項：地域とともにある学校づくりについて



地域開放している早来学園の図書室

### 2 参加者所感（紙幅の都合上、抜粋して掲載）

早来学園は「子どもが意見できること」を目指して創立された。長い廊下での休憩所、落書きができる壁など、学校の施設のいたるところに子どもたちのアイデアが伺えた。また「学校が町、町が学校」という考え方もすばらしい。なので学校の地域開放がすごい。学校で言えば音楽室だが、地域開放ではスタジオとなり、家庭科室はキッチン、美術室はアトリエと名前を変えての開放だ。さらにデジタル化した認証システムを活かし、予約や入館管理を行っている。新しい学校を作ったというより、もはや町のインフラを整備したと言ってもよい。

とうべつ学園でも、子どもたちが発案した「デン」と呼ばれるスペースを作った。デンとは、多目的に使える少し小さめな部屋を指す。こどもたちの憩いにつながるうれしいスペースだ。オープンスペースを活用した造りだが、間接照明も多用しており、学校らしくない設備もあえて取り入れていた。当別町では、そうすることで学校をシンボル化して話題提供しているとのことだ。さらに学校課題に「授業づくり」「授業をデザイン」を掲げ「授業が面白い」「学びがとまらない」という児童生徒の姿が見たいと、授業改革している点も特筆できる。

今回の視察で、今現在の水橋学園に足りないものや姿勢が明らかとなった。開校までの時間でそこを埋めていき、水橋の住民すべてが誇りに思える学校をつくりたい。

顧問 押田 大祐

早来学園の特色は、学校と地域コミュニティセンターと2つの機能を持つ運営がされていることです。シェアする教室が家庭教室・音楽室・美術室・体育館等があり、地域の誰でも簡単にwebサイトから予約して使用できるのが興味深かったです。この様にして児童生徒と住民が関わり合っているそうです。その上でICT制御で扉をロックされて部外者が校内への入室が出来ないよう配慮されていました。

とうべつ学園は、地域の特色を活かした「とうべつ未来学」に力を入れておられました。「ふるさと当別を知り、とうべつの未来について考え、様々な方法で発信する力を育てる」ことだそうです。

最後に2校に共通していることは、異学年交流ができる環境として、教室以外にオープンスペースがあちこちにあり、児童生徒が自由に活動できる場所が設けてありました。廊下はとても広く、体育館の2階部分はランニングをすることが出来るようになっています。我が水橋学園の校舎にも欲しいと思いました。

委員長 花井 秋男

早来学園には、学校の一部を地域の人とシェアした図書室、キッチン、アトリエ等があり、ICTを活用したセキュリティ管理により、児童生徒と地域の人が入れる場所が時間によって安全に区分されていた。また、教室に遊び場があったり、教室からウッドデッキに行けたりするなど、学校全体に遊び心を感じられるようになっていた。

とうべつ学園は、中央が吹き抜けになっていて、オープンスペースが多い校舎であり、体育館の2階には周回できるランニングコースがあった。スポーツの観戦にも役立っている。また、「とうべつ未来学」として「ふるさと教育」「国際理解教育」「キャリア教育」の3つの柱をつくり、ふるさとを知り、ふるさとの未来について考え、自分の人生をデザインし、世界でたくましく活躍できる人を育成することに力を入れていた。水橋学についても「とうべつ未来学」を参考に、より良いものになるよう学校経営部会において、検討を進めていかなければならない。

今回の視察を終えて、水橋学園も日本中から注目され、視察される学園となるように関係者の皆様と一層の努力をしていきたい。

学校経営部会長 戸田 治

何故、統合するのか。「地域の子どもたちが少ない」「教職員の減少」「財政難」これらだけの対応や解消ではない。

北海道内の視察を通じて、義務教育学校の

- ・一貫した小中教育による継続性の確保(小学生への専門教科担当先生の授業)
- ・子どもたちへの学習環境の確保(中学への環境変化の解消)

そして、学園の環境(水橋の場合、緑の田畑・さわやかな空気・仰ぎ見る立山連峰)と郷土(水橋の海・川・農水産業等)に触れあい、さらには学力UPを通じて、個性豊かな子どもたちになることを期待していきたい。視察した学校は北海道内でも規模が大きいこともあり、年間に数十件の視察があるとのことだった。水橋学園の開校が待ち望まれる。

PTA組織準備部会長 釣谷 祐一

早来学園は、平成30年に北海道胆振東部地震の被害に遭った地区であり、義務教育学校として令和5年4月に開校したものです。この学校の特徴は、空間や年代を隔てない「わけない学校」としています。地域のみならず子どもを育てて行く場所なので、地域の人達も地域開放エリアを予約すると利用することができます。校内は教室も通路も、共用スペースもすべて広々としており、気持ちよく過ごせる場所となっています。水橋学園もできるだけ地域の人達に開放していただきたいと思っています。

とうべつ学園は、教室をはじめ、特別教室やオープンスペース等も広く、たっぴりと空間をとり、ゆったりとしています。とうべつ学園は、教育に熱心なイメージで「とうべつ未来学」3つの柱があり、学年ごとにテーマを設けて「ふるさとを知り」「未来について考え」「様々な方法で発信する力を育てる」というものです。これは、水橋学園の授業に予定されている「水橋学」にぜひ役立ててほしいと思います。

開校準備部会長 鹿熊 兼一